

松田純清先輩の

ご逝去を悼む

近現代史研究委員

白石 博司 陸自66

松田純清先輩、突然のご逝去でした。昭和14年生まれの78歳、とても70歳を越えているとは思えぬバイタリテイあふれた先輩でした。

昨年10月上旬に突然の入院、消化器系が痛んでいるとのことでしたが、薬効適わず3月10日にご逝去、半年間の短い癌との闘いでした。

様子が判らないまま、10月末にお見舞いに伺いましたが、今までの松田先輩とは殆んど変化ない様子で、安心して帰ってきました。

11月24日の近現代史研究委員会の講座を担当されていたことも有り、早くから自分が実施をすると言われて、当日3時間の発表・質疑応答を終えられました。やはり疲れた様子が見えませんでした。

12月中旬、事務局長と2度目のお見舞いに伺った際は、髪が真っ白になり、や、痩せておられ、放射線治療がつかいとおつばやいておられました。

松田先輩は愛知県の出身、県立旭丘高等学校を経て、名城大学商学部法学科を卒業され、昭和39年3月陸上自衛

隊に入隊、守山第35普通科連隊、守山第10師団司令部、久居第33連隊本部、三重地方連絡部、名寄第3普通科連隊中隊長、同連隊訓練科長、旭川第2師団司令部、陸募募集課、東方総監部募集課、新発田駐屯地業務隊長、中方総監部総務課長を歴任され平成6年5月1等陸佐で定年退官、30年間の自衛官生活を完うされました。

その後第2の人生として、「東京めいらく(株)人事部長」「(株)レンタルのニッケン採用研修部長」「日本通運(株)本社ペリカンアロー部調査役」等で勤務されるかたわら、国士舘大学の池田十吾教授の指導の下、同大学院政治学研究科修士課程終了、更に同大学院博士課程単位取得満期退学され、博士号取得の直前でありました。

平成17年に偕行社に入り、副事務局長として事務総括業務を担当しつつ、近現代史研究委員として我々を熱く指導していただきました。

この学問追究に対する熱い気持ちと、多くの知識及び研究者との交流は、松田先輩のじ後の偕行社における「近現代史研究委員」のご活動に直接活かされ、我々も研究委員として多くのご指導を戴きました。

先輩、本当に有難うございました。